

れんけいしゅう!

地域医療支援病院
 広島県指定がん診療連携拠点病院
 災害拠点病院
 広島DMAT指定病院
 日本医療機能評価機構認定病院



国家公務員共済組合連合会
呉共済病院

TOPICS

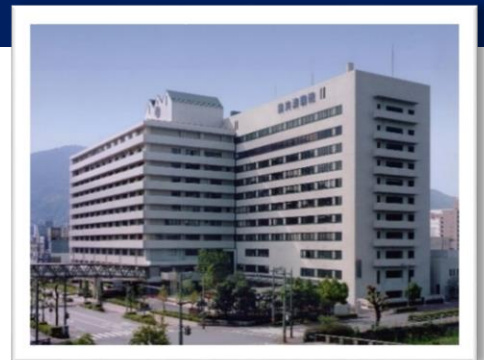
- ◆水ぶくれの病気～薬剤誘発による類天疱瘡～ 皮膚科部長 笹木 慶子
- ◆新型体外衝撃波結石破碎装置導入
- ◆新型コロナウイルス感染症対策のご紹介
- ◆がん相談・患者支援センターNEWS

病院の理念

高度・良質の医療 最善の奉仕 研鑽と協調 地域医療の支援

基本方針

- 一 良質で、適切な医療の提供に努めます
- 二 患者様の権利を尊重し、満足・安心・信頼を追求します
- 三 新しい知識と技術を積極的に習得し、常に質の高い先進的医療を行います
- 四 地域の中核病院として、地域社会の要請に応える医療を提供します
- 五 職員が意欲を持って働ける病院をめざします
- 六 次代を担う有能な医療従事者の育成をめざします
- 七 専門的ながん医療の提供に努めます
- 八 国内での医療救護活動に積極的に参加します



地域医療連携室 がん相談・患者支援センターNEWS

	2020年8月	2020年9月	2020年度累計
紹介患者数《初再診全て》	890	931	5249
逆紹介患者数	812	796	4615
紹介率	70.3%	67.9%	69.1%

新型コロナウイルス感染症対策のご紹介

はじめに

当院では、地域の皆様に安心してご来院頂けるよう、感染対策室（Infection Control Team：ICT）を中心に職員一丸で新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでいます。

呉共済病院の現在の取り組みをご紹介しますが、広島県内、呉市内の流行状況に応じた対策を実施していますので、今後変更となる可能性があります。

基本方針

1. 入院患者さんに感染させない
2. 院内での感染拡大を防止する
3. 職員の健康状態を管理する

安心してご来院いただくための取り組み

1. 来院された方には、マスクの着用をお願いし、一人ひとりにサーマルカメラ（体温測定カメラ）や非接触型体温計で発熱がないか確認しています。
2. 発熱、咳、のどの痛み等で新型コロナウイルスの感染が疑われる患者さんについては、他の患者さんとの接触を回避するため専用の診察室と動線を確保しています。
3. 飛沫感染を防ぐため、各窓口には遮蔽シート（透明のビニールシート）を設置しています。



サーマルカメラ画面



サーマルカメラによる体温測定

安心して入院加療していただくための取り組み

1. 入院患者さんへの感染防止のため、ご家族や訪問者等の面会を原則禁止しています。
2. 面会禁止に伴い、入院患者さんの入院生活に必要な荷物は、手荷物受け渡しセンターでお預かりし患者さんにお届けしています。
3. 病院内にあるタブレット端末を利用し、テレビ電話で面会できます（リモート面会）。
※事前予約が必要です。 また、機器の操作は職員が行います。
4. 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、無症状の感染患者さんが手術を受けられる可能性があり、医師が必要と判断した術前の患者さんを対象に、新型コロナウイルスの術前検査を実施しています。
5. 新型コロナウイルス感染症で入院加療する場合は感染患者さん専用の病棟となります。その他の疾患で入院する患者さんと病棟を共有することはありません。

職員の感染予防対策、環境整備

1. 職員はマスク着用・手洗い・手指消毒を徹底して行っています。
2. 職員は毎日体温を測定し記録しています。発熱等の感染を疑う症状がある場合は所属長に報告し、休務や受診の必要性を相談し、体調管理に務めています。
3. 院内の清潔を保てるよう、部署ごとに環境整備・換気の時間を設けています。エスカレーターの手すりや待合室の椅子など、手が触れる箇所の消毒を中心に毎日環境整備を行っています。



環境整備の様子

水ぶくれの病気

～薬剤誘発による類天疱瘡～

皮膚科部長 笹木 慶子

日常診療にて患者さんから水ぶくれが出来たと相談を受けられた経験はあるのではないのでしょうか。

皮膚に水疱をきたす疾患として頻度の多いものは単純ヘルペス、帯状疱疹、細菌感染（伝染性膿痂疹、蜂窩織炎、丹毒）、皮膚真菌症や物理化学的皮膚障害（褥瘡、靴擦れ、熱傷、接触皮膚炎）等あります。また頻度は少ないですが重症薬疹（スティーヴンス・ジョンソン症候群、TEN）、自己免疫性水疱症があがります。

自己免疫性水疱症の代表的なものに表皮細胞間に水疱を形成する天疱瘡と表皮下に水疱を形成する類天疱瘡があります。

自己抗体による水疱症ですが最近、糖尿病治療薬のDPP-4阻害剤で稀に類天疱瘡が発症することが話題となっています。

類天疱瘡は高齢での発症が多く掻痒を伴う紅斑、水疱が散在します。紅斑ばかりで水疱がはっきりしない患者さんもいるので原因不明の皮膚炎として加療されていることもあります。

診断には皮膚生検、皮膚組織での蛍光抗体直接法、血清での抗体測定が必要です。

DPP-4阻害剤が原因の類天疱瘡は軽度であれば薬剤を中止し2ヶ月程度で寛解することがありますが、薬剤中止後も特発性水疱性類天疱瘡と同様に長期に渡ってステロイドや免疫抑制剤の内服が必要となる症例もあります。

またステロイドパルス療法、大量免疫グロブリン静注療法、血漿交換等の治療が必要となることもあり基本的には安定するまで入院での加療を行います。

他に薬剤誘発性類天疱瘡の原因薬剤としてフロセミドが多く報告されています。また天疱瘡、類天疱瘡とも誘発しうる薬剤としてはD-ペニシラミン、ブシラミン、カプトプリル、ペニシリンが報告されています。

薬剤誘発性類天疱瘡に限らず水疱症は診断が難しい場合もあり水疱や難治性の紅斑等がみられましたらまずは皮膚科へご紹介頂ければと思います。

▼水疱性類天疱瘡



紅斑、水疱が混在



水疱が集簇

新型体外衝撃波結石破碎装置導入

モデュルス SLX-F2(スイス ストルツメディカル製)

稼働日 10月5日

従来の機種に比べX線装置が格段に進歩し、100万画素のCCDカメラを搭載。小さな結石や不鮮明な結石に対応し、正確な位置決めが可能となりました。従来のアナログからデジタルへ進化し、よりクリアな画像となり治療効果を得られます。

安全性に関しても、デジタルフォーカスが標準搭載となり、様々な結石の大きさ、位置に合わせて衝撃波圧力領域を調整できるため、安全で最適の治療効果が得られます。

衝撃波発生方式は円形型電磁変換方式(特許)を採用しており、焦点深度も180mmと深く、肥満体系の患者に十分適応でき、且つ皮膚表面では衝撃波の面積が広く取れますので、患者の痛みが軽減され、安心できる装置です。

衝撃波に関しても、体表及び体内の周辺組織に影響は少なく、パワフル(衝撃波圧力値150Mps 国内トップクラス)に結石破碎が可能となります。

体外衝撃波装置による治療は体への負担が少なく、治療時間も1時間程度ですので日帰り治療も可能です。



結石破碎室

呉共済病院 泌尿器科